

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

6年生が行った、全国学力・学習状況調査の結果について、本校の傾向をお知らせいたします。

### 【国語】

全体的にみると、全国・県の平均値を下回る結果となりました。全国の平均正答率を100とした場合の相対値は以下の通りとなります。

#### ①内容について

- ・3つの内容全てにおいて、下回っている。・「読むこと」が、-22.1と著しく下回っている。

#### ②問題形式について

- ・3つの形式全てにおいて、下回っている。・「記述式」が、-31.6と著しく下回っている。

### 【算数】

全体的にみると、全国・県の平均値を下回る結果となりました。全国の正答率を100とした場合の相対値は以下の通りとなります。

#### ①内容について

- ・5つの内容全てにおいて、下回っている。・「測定」が、-23と著しく下回っている。

#### ②問題形式について

- ・3つの形式全てにおいて、下回っている。・「記述式」が、-36.1と著しく下回っている。

### 【理科】

全体的にみると、短答式を除き、全国・県の平均値を下回る結果となりました。全国の正答率を100とした場合の相対値は以下の通りとなります。

#### ①内容について

- ・4つの内容全てにおいて、下回っている。・「地球を柱とする領域」が、-15.6と著しく下回っている。

#### ②問題形式について

- ・3つの形式全てにおいて、下回っている。・「記述式」が、-25.5と著しく下回っている。

3教科を通し、記述の面で課題が見られたため、今後も授業中に自分の考えをノートに書く時間を設け言葉や文章にするだけでなく、図などで表現するなど、実態に応じて書く活動を多く取り入れていきます。

### 【質問紙調査】

教科を中心とした学力・学習状況調査では、県平均値及び標準偏差をもとに算出した偏差値から見ると、「主体的・対話的で深い学び」が-0.21、「ICTを活用した学習状況」が-0.24と低くなっています。

本校児童は自己有用感が高く、児童は社会や家庭・学級の一員として居場所を感じ、誰かのために頑張りたいと思う気持ちや、行事を通し達成感を味わうことができていることがわかりました。その他の学力・学習状況においては、「学習習慣」が-0.42と低い結果となっています。

今後の対策として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教職員の個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けた意識及び授業改善が必要となります。研修等を通して指導改善を図っていきます。

学習習慣につきましては、家庭での携帯やゲームとの関わり方、学習時間の確保についてお子様とお話いただければと思います。その際は、年度初めに配付いたしました「家庭学習の手引き」をご活用ください。保護者の皆様のご協力よろしくお願いいたします。